第２章　みどりのまちづくりの課題とグリーンインフラ

1　大田区を取り巻く動向

（１）社会的動向

①ネイチャーポジティブやカーボンニュートラルなど環境に関する世界的な潮流

人間の生活は、物質的には豊かで便利なものとなった一方で、人類が生存し続けるための基盤となる地球環境は限界に達しつつあると言われており、生物多様性の喪失や気候変動などの環境関連リスクは、中長期的に見ると世界経済に対する深刻なリスクになるとされています。

こうした中で、世界的に生物多様性や気候変動に関する動きが加速し、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラルの実現に向けた取組が大きな潮流となっています。

②社会資本整備やまちづくり等におけるグリーンインフラへの期待

■自然災害の激甚化、頻発化への対応

近年、集中豪雨の発生頻度が増え、大規模な風水害の発生及び土砂災害の発生件数が増加するなど、自然災害が激甚化・頻発化しており、今後は地球温暖化による気候変動の進行により、さらなる被害の増大も懸念されています。自然災害に見舞われた地域においてより良い復興を図ることは、持続可能で活力ある国土づくりを図る上での喫緊の課題であり、グリーンインフラの活用も期待されています。

■インフラの老朽化を踏まえた維持管理への対応

建設後 50 年以上経過する施設の割合が加速度的に上昇するなどインフラの老朽化が進行するなか、インフラの計画的な維持管理・更新や地域のニーズ等に応じた集約・再編の取組が推進されています。このようなインフラの更新や集約・再編時をチャンスと捉え、予防保全型インフラメンテナンスへの転換や新技術の活用などの取組と並行し、グリーンインフラの活用を促進することも重要であるとされています。

■魅力とゆとりある都市・生活空間へのニーズの高まり

グローバル社会における国際的な都市間競争が激しくなる中、クリエイティブ人材を呼び込むためには、都市が備えるべき機能や要素としてグリーンが極めて重要な要素となっており、都市空間でのグリーンの導入が一層求められています。

また、コロナ禍を契機に、人々の求める生活スタイルが変化し、ゆとりある空間や自然環境へのニーズの高まりも見られており、人と自然の適切な距離を確保しつつ、自然を活用して多様な社会課題の解決を図るグリーンインフラの取組が求められています。

③SDGs や Well-being 等新たな社会像の実現に向けたグリーンインフラへの期待

■SDGs の実現に向けた意識の高まり

グリーンインフラの取組は、誰一人取り残さないという持続可能な開発目標（SDGs）実現の基盤となるものです。SDGs の 17 の目標は「経済」「社会」「自然資本」の３層に分類でき、「経済」は「社会」に、「社会」は「自然資本」に支えられて成り立つと言われています。この自然資本をグリーンインフラによって回復させることが、SDGs を達成し持続可能な社会を構築する上で重要な役割を果たすと考えられます。大田区は、SDGs の達成に向けて優れた取組を提案する都市として、内閣府から 2023 年度の「SDGs 未来都市」に選定され、持続可能なまちづくりに向けて各種施策を展開しています。

［持続可能な開発目標ＳＤＧｓ］

■Well-being、ワンヘルス、こどもまんなか社会、DX 等の実現

価値観の多様化、働き方改革の推進等のなかで、Well-being 向上へのニーズが高まっています。また、人々の健康には地域が健康であることが必要であり、そのためには、地球環境や生態系が健全でなければならない、すなわち、人・動物の健康と環境の健全性は、生態系のなかで相互に密接につながり、強く影響し合う一つのものであるという「ワンヘルス」（One Health）の考え方が注目されています。

さらに、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、次の世代を担う子どもたちの健全な成長のため、豊かな自然に接し学ぶ機会を提供することが求められています。教育の場としてや心身の安らぎの場としてもニーズが高まり、加えて、デジタル庁の創設やデジタル田園都市国家構想の推進等により我が国のＤＸが進むなかで、併せてリアルの世界の重要性の認識も高まりを見せており、究極のリアルとも言えるみどりについて改めて注目されてきています。

（２）大田区が目指すみどりのまちづくりの将来像

グリーンプランでは、基本理念に基づき、みどり豊かな潤いのあるまちのあるべき姿として３つの将来像を定め、目指すみどりのまちの実現に向けて取り組んでいます。

グリーンプランの将来像

◆こころ豊かに住み続けられる「みどりあふれるまち」

◆多様なみどりが広がる世界に向けた「おもてなしのまち」

◆みどりがつながる「地球にやさしいまち」

2　課題解決に向けたグリーンインフラの視点

（１）「防災・減災」「環境」「地域振興」の各視点からみる大田区の姿

「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用することで、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組です。

このことを踏まえ、自然環境への配慮を行い、巧みに関与、デザインすることで、自然環境が有する多様な効果を発揮させ、様々な地域課題に対応していきます。

出典：グリーンインフラポータルサイト（国土交通省）

ここでは、「防災・減災」「環境」「地域振興」の各視点からみる大田区の姿とまちづくりの課題を整理しています。

防災・減災

大田区をはじめ東京都は、首都直下地震等の地震発生、気候変動に伴う豪雨による被害が懸念されています。こうした被害を抑制すべく、不燃化特区制度を活用した不燃化まちづくりや、防災公園の整備が進められています。

東糀谷防災公園では、都市公園として、レクリエーション機能や、保育園が活用する体験農園、そして糀谷地域の防災性を高めるため、地域防災活動の拠点として整備しています。

▲防災公園として整備された東糀谷防災公園

環　境

都市の高密化が進む大田区では、街は人工構造物で覆われ、ヒートアイランド現象が発生しています。悪化する街の暑熱環境は温室効果ガスの発生を助長する一つの原因ともなっています。

呑川緑道では、歩道に木陰が落ちる快適な歩行空間を創出するなど、グリーンプランに基づき、緑豊かで快適な都市形成を推進しています。また、大森ふるさとの浜辺公園では、ブルーカーボンとして海草が大気中のCO_2濃度上昇の抑制に貢献するコアマモの植生実証が先駆的に進められています。

▲コアマモの植生実証が行われている大森ふるさとの浜辺公園

地域振興

大田区内には、洗足池公園や本門寺公園など、歴史と自然環境が調和した公園があり、多くの人々に親しまれています。洗足池公園は、江戸時代から景勝地として名高く、公園内には歴史遺産から自然まで様々なものに親しめます。桜は約 200 本あり、春には花見の名所としてにぎわっています。

また、蒲田駅や大森駅では、開発事業も計画されており、開発にあわせて自然環境を活用することで、魅力的でにぎわいあるまちづくりが期待されます。

▲花見でにぎわう洗足池公園

（２）視点毎に解決すべき課題

防災・減災

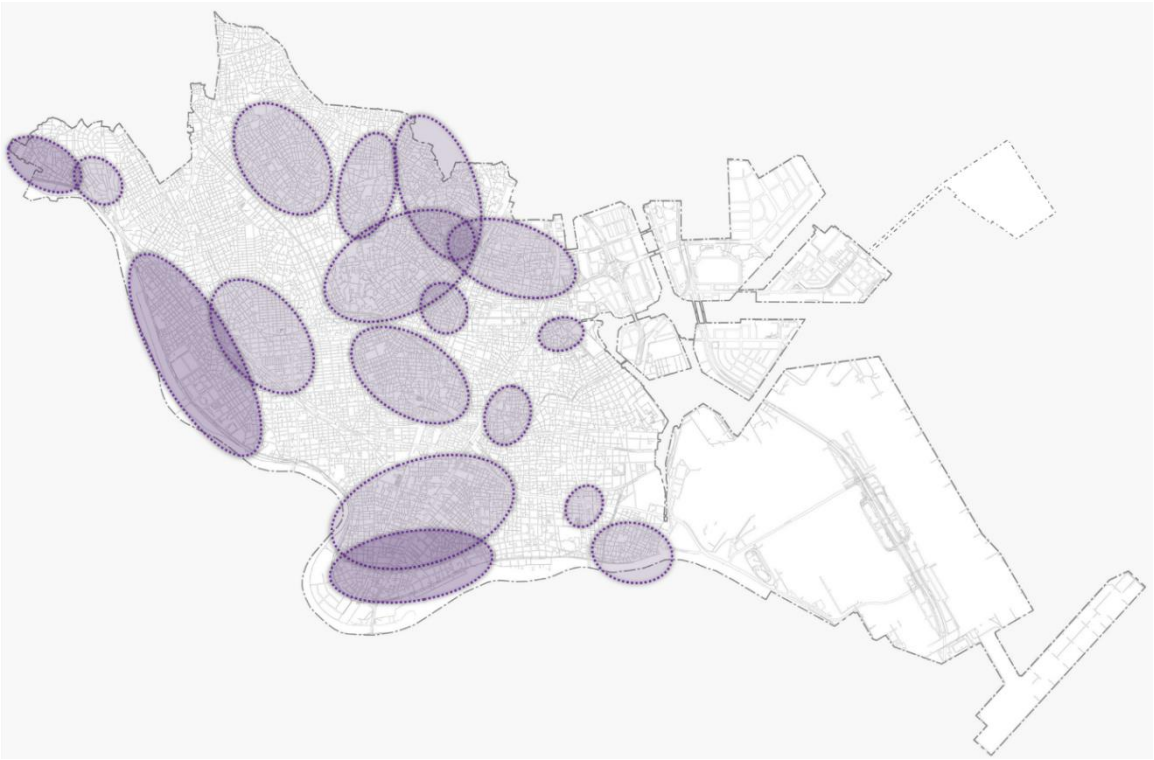
■みどり空間を活用した内水氾濫の軽減

・馬込・池上地域等では、道路や小規模河川に沿うように浸水実績があります。こうした地域では、豪雨時における雨水の一時貯留や雨水の流出の抑制によって、内水氾濫を軽減することも期待でき、既存の公園・緑地の適切な保全及び民有地等の雨水一時貯留・流出抑制機能の付与に積極的に取り組むことが必要です。

■内水氾濫等に対する防災・減災意識の向上

・多摩川沿いのエリアでは、いくつかのエリアにおいて浸水深３ｍ以上の浸水の懸念があります。多摩川沿いには多くの公園・緑地が確保されていますが、都内でも水量の多い多摩川においては、堤外地の緑地による洪水被害を抑制する水の貯留効果は期待できません。このため、堤内地における既存公園の再整備による身近な避難場所となる高台の確保、堤防への緑化等により越流水の流れを緩和させるなどの堤防強化を図ることで、洪水被害を緩和させる取組を進めることが必要です。

・大田区の臨海部は、高潮による面的な浸水も懸念されます。身近な避難場所となる高台の確保のための既存公園の再整備など、浸水時における一時避難のための取組が必要です。



［防災・減災の視点にみる課題位置図］

環　境

■暑熱環境の改善に寄与するみどりの創出

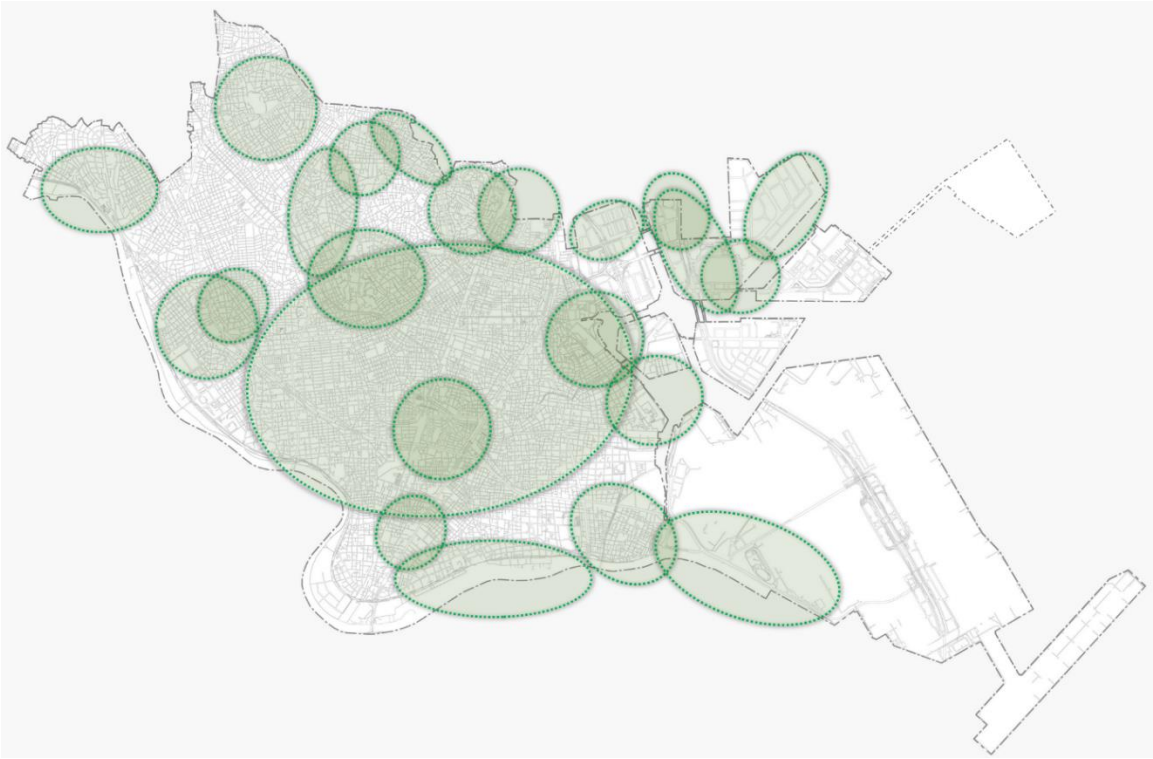
・蒲田駅を中心とする市街地においては、都市の高密度化が進んでおり、緑被率が低い傾向にあります。こうした地域では、人工被覆面が多く、夏季には熱中症のリスクがあります。また、まとまった緑地がないことも、都市の暑熱環境の悪化を助長しています。一方で、大田区ではみどりの保全と創出を通じて、住みやすい魅力的なまちづくりを目指しています。

・このことを踏まえ、民間開発にあわせた小規模緑地の確保、歩道空間における木陰のできるみどりの配置などにより、みどりによる景観的な魅力だけでなく、過ごしやすい環境への改善に寄与するみどりの創出が必要です。

■快適な住環境の創出につながる質の高いみどりの創出

・市街地では都市の高密度化が進み緑被率が低く、台地部地域では緑地が減少傾向にあります。一方で、緑地が増加している地域もありますが、こうした地域は、いずれも河川沿い、湾岸沿いのエリアであり、人々の活動空間における緑地の増加は見られません。

・日本最大の国際空港を有し、開発ポテンシャルの高い大田区では、新たにまとまったみどりを市街地部へ確保することは困難ではあるものの、公民連携のもとで質の高いみどりを確保することで、都市の魅力を高め、快適な住環境の創出に寄与していくことが必要です。



［環境の視点にみる課題位置図］

地域振興

■にぎわい空間の創出

・大田区では、蒲田駅・大森駅等の主要駅を中心としたまちづくりが進められています。特に都市計画マスタープランの都市拠点に位置づけられている地区では、高密な市街地が形成され、みどりの創出が難しいと考えられますが、再開発事業・都市基盤整備事業によって、インフラの再整備が予定されており、これを契機とした区民・事業者・行政の取組、公民連携による取組が必要です。

■身近なみどりによる景観形成

・各地域でまちづくり、観光、環境に関わる 100 以上の区民団体が活動しています。グリーンインフラは、自然環境を活かした成長するインフラであり、日常的な維持管理が求められ、こうした区民団体との連携によるみどりの維持管理を継続的に実施するための取組が必要です。

［地域振興の視点にみる課題位置図］